

■受講者 バス乗務員36人 事務職員12人 計48人
■研修内容 高齢者疑似体験

お客様の安全輸送確立のため、乗客(高齢者)の立場になってバスの乗降等を体験しました。受講者の多くが初めて体験する参加型の研修であったことから、新鮮さと期待感で全員が真剣に取り組み、乗客の安全輸送確立のために極めて有効な研修となりました。



参加体験型安全研修が、神奈川県警本部交通課をはじめ加賀町警察署の指導により実施されました。

高齢者疑似体験 シートベルト衝撃体験



※高齢者疑似体験とは？
疑似体験装具(ヘッドホンや特殊眼鏡、手足の重りなど)を装着し、高齢者の日常生活における動作を擬似的に体験し、加齢による身体的な変化を体感することをいいます。



※シートベルト着用の衝撃体験
事故時の衝撃を体感(衝撃体験マシンにシートベルトを着用のうえ着座して、時速約7キロの衝撃を体験する)することで、シートベルト着用の必要性を再認識しました。



■受講者の主な感想

- ・高齢者疑似体験では、バスの乗り降りが、こんなに不自由と思わなかった。運行中は、高齢者の立場に思いを置いた運転を心がける。
- ・急ブレーキ、急ハンドルの運転をしない。お客様が眠くなる運転を心がける。
- ・事故の衝撃がどの程度か、わからなかったが、わずかな速度でも大きな衝撃を感じた。シートベルトは絶対しなければいけなし、お客様に着用の徹底をお願いしたいと思った。
- ・安全運転シュミレーターで、死亡事故を起こした。危険予測が足りなかったもので、実際の運転だったと思うと、ぞっとした。

メディア掲載

■2010年4月1日 神奈川新聞掲載記事



いたわり持ち運転を 事故防止の交通安全研修

春の全国交通安全運動が、6日からはじまる。神奈川県内の旅客運送会社で、30日間の交通安全研修が行われた。研修に参加したのは、シティアクセス(横浜市中区新山下)のバス乗務員ら約50人。加賀町警察署の指導を受けて、シートベルトを着用して時速7キロの衝撃を体感するシュミレーターや、安全運転シュミレーターの中で、参加者が身をよけて避けたら、高齢者の身体能力の疑似体験、加齢による視力や聴力の低下、特殊眼鏡や重り、サポータを身につけて再現バスの前段の上り下りを体験した。参加者は「自分が若年層を乗せているつもりで、高齢者のバスに乗り降りするのを体験した」と、

